

(一社) 日本臨床耳鼻咽喉科医会

令和6・7年度 第3回理事会議事録

令和6年9月1日(日) 13:00~16:15 (Web開催)

出席者 会長：川寄良明 副会長：川島佳代子、野上兼一郎、藤岡 治

理事：朝比奈紀彦、麻生 伸、市川菊乃、大滝 一、塩見洋作、玉木克彦、中澤 宏、
永田博史、春名眞一、松岡 徹、宮部和徳、横田雅司、吉村 理

監事：浅井英世、高原哲夫 (計19名) 事務局：井出あゆみ、平間妙子

会長挨拶

ここ一週間台風により振り回され Zoom での開催となった。

8月に宮崎県で地震があり、今回の台風では神奈川県内の診療所で床上浸水の被害があった。

8月8日に日本医師会へ臨床耳鼻科医会会長と日耳鼻学会理事長の交代を報告した。

この際、来年3月に販売を中止するアリナミンに関して相談した。アリナミンの件は、事前に関係学会に相談し了承を得てから、日医の理事会にもはかっている。また、学会と日医から厚労省に働きかけ販売継続を訴えているが、元々安価な上に販売数も少ないため製薬会社も厳しい様ではある。この日は自見議員の事務所を通して7月に交代された厚労省の老健局、医政局の課長にも挨拶に伺った。自見議員には感覚器関係の要望を厚労省へ出したい旨伝え、耳鼻科単独より眼科と共同の方が良いと言われ、眼科に声を掛けていただき8月23日に話し合いの場を持った。65歳からの介護チェックリスト、75歳以上のフレイル健診、特定健診、要介護の認定に聴力の問診や検査を入れてもらうよう厚労省へ要望のある事を眼科に伝えた。

本日の理事会には日医の長嶋理事を招いてベースアップ加算の説明を受けるはずであったが叶わず、日医で作成するビデオを理事のみでなく全会員に観て頂くことになる(日医のHPにあげる形になるかもしれない)。現状ではベースアップ加算を算定する医療機関がかなり少なく、このままだと取り下げられてしまう可能性がある為。

報告事項

1. 庶務委員会 (松岡理事)

(1) 令和6・7年度第2回理事会議事録(2024.7.7)について報告した。 【資料1-1】

(2) 令和6年8月までの入会・退会・異動および会員数を報告した。 【資料1-2】

入会89件、異動24件、退会16件があり、令和6年8月30日現在A会員4,287名、B会員2,940名、計7,227名であった。

(3) 神奈川県医会からの退会者の承認依頼があった。 【資料1-3.1】

A会員2名、B会員7名計9名は臨床耳鼻科医会年会費を2年間未納であるとの報告があり臨床耳鼻科医会では退会扱いになる事が承認された。

会費未納者に対して再三の会費納入依頼にもかかわらず未納が2年間続いたため、臨床耳鼻科医会からの退会打診に至った。神奈川県医会では了承済みである。

(藤岡副会長)

2. 広報委員会 (中澤理事)

(1) ホームページリニューアルの中間報告 【資料2】

・現在のトップページの前に、新たな「トップページ」を新設。

- ・新しいトップページに「会員の皆さん」「一般の皆さん」のみを作成。
- ・会員トップページは現在のものを使用。
- ・会員トップページの中央に ID、パスワードで入る、いわゆる「会員専用ページ」の大きなバナーを作る（「疾患情報」・・・「ワーキンググループ」のバナーの上）
- ・「一般の皆さん」の内容は現在のものを参考にするが、構成から言葉づかいまで、全面的な変更が必要になる。

(2) バナー新設の件

- ・会員ページに「難聴対策・ヒアリングフレイル」のバナーを新設する。
- ・「ヒアリングフレイル」という商標登録されている造語を医学用語のように使用することを、日耳鼻・臨床耳鼻科医会で了解しているか？（横田理事）
→商標登録されている「ヒアリングフレイル」というワードの使用にあたり、改めて中石所長の了解を得る。（中澤理事）

(3) 山形県酒田市から臨床耳鼻科医会ホームページへリンク依頼の件（藤岡副会長）

- ・酒田市からヒアリングフレイル啓発のため、市 HP の福祉関係から臨床耳鼻科医会 HP にリンクしたいとの依頼があり、快諾した。
- ・今後も地方自治体等公共団体への情報提供には積極的に応じる方針としたい。

3. 経理・会員福祉委員会（塩見理事）

(1) 会計報告

- ①令和 6 年 7 月末までの会計報告を行った。 【資料 3-1, 3-2】
- ②令和 6 年 7 月 6 日開催の新旧理事の歓送迎会に係わる費用、退任される理事への記念品等で、通常より支出が増えている。

(2) 2024 年 9 月役員会（経理）

【資料 3-3】

第 2 回理事会で提案した、院内スタッフに対しての医療安全管理研修と院内感染対策研修用動画コンテンツに関して、掲載コンテンツを増やすよう大正製薬株式会社に依頼している。前向きに検討するとの返事があり、最終回答があれば HP への掲載を広報委員会に相談する予定である。

(3) 災害対策本部案 2024 年 7 月 28 日

【資料 3-4】

- ①前期からの持ち越しをまとめ、加筆して原案を作成した。8 月 8 日の日向灘沖地震を受け、急遽理事会に提出し関係部署からの意見を求めることとした。
- ②情報収集・配信ツールの整備が重要とされるが、毎月医会長へ定期メールを送信しているメーリングリストが使えるようである。
 - ・非常に良い取り組みだと思う。地域医療委員会においても災害に対する備え、災害時の対策等について検討を行っている。現在、能登半島地震のアンケートをまとめている。会員からは支援金がありがたかったとの意見が多かった。被災地の拠点病院へ応援医派遣の提言を考えている。連絡網に関して事前登録の必要があるが、総務省が災害時優先電話というシステムを作っている。一緒に協議をさせて頂ければありがたいと思う。（野上副会長）

(4) 開業会員が病気になったときの代診医ドクターバンクについて

会員福祉の新規事業として、委員から上記創設の提案があった。日耳鼻専門医育成・活用 WG 座長の堀井 新教授に相談したところ、求人という点では同じであるため、

同 WG 内で議題に挙げて頂けることになった。9 月 26 日に WG 開催予定。

4. 地域医療委員会（横田理事）

(1) 令和 6・7 年度第 1 回地域医療委員会（第 1 回日耳鼻・臨床耳鼻科医会合同委員会）を開催した。（令和 6 年 7 月 5 日） **【資料 4】**

(2) 令和 6 年度事業計画について、次に示す昨年度までの全ての事業を継続することが了承された。

①新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外来診療アンケートを実施し検討を行う。

②地域医療の動向について調査研究する。（救急医療体制について）

③災害医療の会員への啓発について検討する。

④災害時に必要に応じて現地視察を行う。

⑤軽度嚙下障害患者診療の積極的勧奨を行う。

⑥耳鼻咽喉科医療の拡大に向けて検討する。（魅力的な外来診療のあり方や医療経営安定化に向けて道筋を検討）

⑦耳鼻咽喉科外来医療経営基礎調査について検討する。

⑧在宅医療・訪問医療への積極的参入（地域医療を進めるシステム、往診キット等）について検討する。

②、③、④、⑤は委員の交代で担当者が不在になり、次回会議で新たに担当者を決める。

③、④に関して、経理・会員福祉委員会で野上副会長が述べたように、「2024 能登半島地震に関する調査」の結果がまとまったので次回報告したい。

(3) 令和 6 年 9 月 8 日に第 2 回委員会を開催する。

5. 保険医療委員会（玉木理事）

令和 6・7 年度第 1 回保険医療委員会を日耳鼻会議室（Zoom 併用）で開催した。

（令和 6 年 7 月 25 日）

【資料 5-0～5-5-0】

報告事項

(1) 令和 6・7 年度の課題と活動目標

【資料 5-1】

①課題

ア) 令和 8 年度診療報酬改定への要望事項の準備と働きかけ

イ) 保険既収載項目に散見される、現在は施行されなくなった手術や検査への対応

ウ) 新規技術等の保険収載プロセスや保険審査業務に精通する若手委員の不足

②活動・目標

ア) 新たに保険収載を目指す手術・検査・指導料・管理料などの把握と整理を行い、要望の包括的推進を図る。

・日耳鼻および関連学会、臨床耳鼻科医会から挙げた保険収載要望事項を整理し、保険医療委員会が中心となり外保連に加え、内保連、日医の各ルートを通じて積極的に働きかけ、令和 8 年度の保険収載を目指す。

イ) 保険既収載項目の見直しと整理

・新規項目収載を要望する一方、既収載項目の時代に即した見直しを行い、耳鼻咽喉科関連の処置・手術・検査などのスリム化、体系化を図る。

ウ) 次世代を担う保険医療委員の育成

・超高齢社会およびポストコロナ禍を迎え、耳鼻咽喉科診療も大きく変貌しつつある。保険収載プロセスや保険審査業務への精通に加え、近未来の耳鼻咽喉科保険診療の

在り方にビジョンを持ち、対応・推進できる若手委員を育成する。

エ) ワークショップや全国会議、全国協議会の開催

オ) 耳鼻咽喉科保険医療実態調査の施行

(2) 外保連・DPC 小委員会

外保連 DPC 小委員会からの報告事項では途中経過と後述 (8) が報告された。

(3) 企画調査小委員会からの報告

【資料 5-2】

令和 5 年 10 月の耳鼻咽喉科保険医療実態調査の結果が報告された。

- ・調査対象は全国で定数 610 のうち回答が 608、有効が 603 で採用率が 99%であった。
- 一施設当たりのレセプト件数、延べ患者数はほぼコロナ禍前に戻り、総点数は過去 20 年で最高だった。新型コロナが 5 類になり更に耳鼻科点数の増点によると思われる。耳垢栓塞除去は令和 2 年がピークで昨年はやや減少している。今年は 6 月の改定では減点されているので注目したい。ネブライザー・超音波ネブライザーとも 2、3 年前よりは増加しているが、コロナ禍前までには回復していない。患者 100 人に対する処置の頻度で耳処置、耳管処置は減少のままで他の処置もコロナ禍前までは戻っていない。検査の頻度は軒並み低下している。主な検査の検査全体に占める点数と回数の構成比は昨年よりさらに減少していた。

(4) 外保連第 30 回記念懇談会

今回日耳鼻からの発表は無かった。

(5) 医薬品の供給停止・出荷調整

【資料 5-3】

アリナミン注射液の製造中止が問題となった。

(6) スイッチ OTC に関して

デキサメタゾンシペシル酸エステル（カプセル剤、粉末剤）点鼻薬 OTC 化の申請があり、カプセルは誤飲の可能性があるため推奨せず、粉末は医師の指導のもと使用することが望ましいとした。

(7) 末梢前庭障害（内耳性めまい）に対する脳血管疾患等リハビリテーション料について

- ・めまいに対するリハビリテーション料や指導管理料は過去に申請をしても採用されていない。
- ・再度申請するにあたり、他科からの請求を避けるため適応疾患名は単に「めまい」ではなく「末梢前庭障害」としている。
- ・問題点もあり検討課題となった。

(8) 「咽頭・喉頭の良性疾患に対する鏡視下手術」保険収載の要望について 【資料 5-4】

- ・咽喉頭の良性疾患に対する鏡視下手術点数が無いので、新規術式として「咽頭・喉頭の良性疾患に対する鏡視下手術」を申請する要望があった。

協議事項

(1) 保険医療委員会日程を決定した。

(2) 委員会業務の役割分担が発表された。

(3) 第 19 回日耳鼻保険医療委員会全国会議が令和 6 年 9 月 29 日に TKP ガーデンシティー品川で予定されている。

- ・26 項目の質問が寄せられていて現在協議中である。

(4) 令和 8 年度診療報酬改定に向けた要望項目アンケート依頼について

- ・令和 6 年 9 月末までに日耳鼻から外保連に要望が出される。

- (5) 令和6年度保険医療委員会ワークショップおよび全国会議について
・令和7年1月25日に品川で予定されている。
- (6) 人工内耳スピーチプロセッサアップグレードについて 【資料5-5-0】
・一定の条件を満たせば健康保険適応となった。適応についての説明があった。
- (7) 高度難聴指導管理料の算定について
・高度難聴指導管理料はイ.人工内耳埋込術を行った患者500点、ロ.イ以外420点となっている。
・ロ.の算定要件は伝音性難聴では両耳の聴力レベルが60デシベル以上である。
混合性難聴または感音性難聴については日常生活に支障をきたすことが目安とした。

6. 学校保健委員会（朝比奈理事）

- (1) 令和6・7年度の委員会構成について報告した。 【資料6】
- (2) 「耳鼻咽喉科健康診断マニュアル」改訂版を作成中であるが、来年1月の全国代表者会議で提案したうえで来年3月頃の発行を予定している。
- (3) 学校保健委員会の事業計画として他の委員会・日耳鼻WGとの協働を掲げているが、学校保健委員会からの委員派遣について報告した。
- (4) 平成16年に日本学校保健会が発行した冊子「難聴児童生徒へのきこえの支援」の改訂に向け、「難聴の予防・啓発指導資料」作成委員会が組織された（委員長：中川尚志教授）。学校保健委員会からも委員を派遣し協力している。
- (5) 埼玉県上尾市役所の職員から、上尾市の耳鼻咽喉科学校健診の現状についての連絡があった。
当事者には「現状を確認したので医会としての対応を協議中。少し時間をいただきたい」旨を伝えてある。この事案については日本医師会学校保健委員会にも報告した。学校健診に関して様々な問題があり、学校保健全国代表者会議までに意見をまとめていく方針である。
- ・上尾市の学校健診に関して、埼玉県および上尾市の医師会・耳鼻科医会の状況を確認したが現状の改善を検討する予定はなさそうである。上尾市の病院耳鼻科に改善策を検討したい。この問題は、ほかの地域でもおこっている事象であろう。今後は医会としての対応・対策が必要であり、情報があれば報告してほしい。（川寄会長）

7. 福祉医療委員会（麻生理事、大滝理事）

- (1) 福祉医療乳幼児委員会（麻生理事） 【資料7 乳幼児】
令和6・7年度第2回福祉医療・乳幼児委員会を日耳鼻と合同でWeb開催した。
（令和6年8月22日）
- ①来年の第126回日耳鼻総会で学校保健委員会と共同で健診に関する内容についてパネルディスカッションを企画している。
- ②委員会内のWGについて
- ア) 耳科学会や小児耳鼻科学会と共同で、地域で小児難聴を扱う病院・医院の医師を対象にした相談医制度を整備するため、テキストを作成し、e-ラーニングの形で認定できるような計画を進めている。
- イ) 気管切開児が修学旅行など旅行先で急変した際に受診できる医療機関を知りたいという目的もあり、地域で小児の気管切開・管理を行っている医療機関リストの作成、

小児気道管理に関する現状調査・指針等のマニュアル作成を計画している。

- ウ) 乳幼児・小児健診に関する調査および情報発信のため、1歳6ヵ月健診、3歳児健診、5歳児健診の全国調査を行う。
 - エ) 医療者側からみた中核事業調査、モデルケースの紹介をして促進、NHS 検査の整備状況の実態調査を行う。
 - オ) 人工内耳・補聴器装用児の転居時等の受け入れ医療機関抽出と共有のための方策を検討する。
 - カ) 小児睡眠時無呼吸診療の診療体制の充実を図ること、小児の無呼吸を専門的に診療できる医療機関のリストを作成していく。産業保健委員会、日耳鼻関連学会、睡眠学会、小児科学会と連携が必要となる。
- ③令和6年度日耳鼻・臨床耳鼻科医会 福祉医療・乳幼児担当者全国会議、福祉医療サマーセミナーの演者を選任した。サマーセミナーについては、次回委員会までに決定する予定である。

(2) 福祉医療成人老年委員会報告(大滝理事) 【資料7 成人老年1】

①令和6・7年度第1回福祉医療・成人老年委員会について報告した。

(令和6年8月22日)

新メンバーの自己紹介があった。今までの聴覚に加えめまい・平衡、音声・言語、嚥下にも注力する方針となった。

ア) 令和6、7年度の活動として「補聴器WG」を設置した。

イ) 令和6年度福祉医療・成人老年全国会議を令和7年1月25日(土)に東京で開催する。

ウ) 第50回サマーセミナー・第30回補聴器キーパーソン会議を令和7年6月28日(土)、29日(日)に東京で開催する。6講演の講師も候補が決まり、うち一題を高橋辰委員が補聴器販売店との連携に関する要望などにつき講演する。

エ) 第51回サマーセミナー・第31回補聴器キーパーソン会議を令和8年6月20日(土)、21日(日)に東京で開催することが決まった。

オ) 学会ホームページへの補聴器相談医名簿の勤務先の掲載について協議された。

カ) 各地方部会主催の補聴器相談医委嘱・更新のための講習会実態調査をあらためて行うこととした。

キ) 年3回の委員会で協議時間が足りないことから秋に1回、委員会を追加することとなった。

②福祉医療成人老年委員会会議資料について (大滝理事) 【資料7 成人老年2】

ア) 令和6・7年度第1回福祉医療・成人老年委員会会議次第

イ) 令和6・7年度福祉医療・成人老年委員会 名簿 (新谷先生は委員長に修正)

ウ) 補聴器WG 座長、委員名簿

8. 医療安全・医事問題委員会 (阿部理事) 報告なし

9. 勤務医委員会 (永田理事)

(1) 令和6・7年度第1回勤務医委員会について報告した。(令和6年8月1日)

【資料9】

①会報の「勤務医のページ」の執筆者については、村上信五先生と工藤典代先生から承諾をいただいたので、この両名で決定した。

10. 学術委員会（吉村理事）

- (1) 令和6・7年度第1回学術委員会について報告した。（令和6年8月19日）
【資料10、10-1】
- (2) 臨床医会セッション学術委員会業務内容申し送り事項について確認した。
医会セッションの概ねの流れについては、会長・副会長・医会事務局・会報委員会と内容を詰め最終案を作成する予定である。
【資料10-2～4】
- (3) 学術委員会事業計画案の提案があった。川寄会長よりホームページの充実のため学術委員会としても広報委員会に協力するよう指示があった。
- (4) 学術委員会からの発信として患者さんへの啓発を目的とし業者に協賛を依頼した上で補聴器やHPV関連中咽頭癌などのポスターやパンフレットを作成したいと考えている。また会員へ最近増えている疾患に対する診療上の留意点など啓発活動を行って行きたいと考えている。

11. 会報委員会（宮部理事）

- (1) 2024年度第2回会報委員会について報告した。（令和6年8月6日）【資料11】
- (2) 日本臨床耳鼻咽喉科医会会報第5巻第1号の内容に関するアンケートを会員対象に実施する。
 - ・アンケートの実施方法は？（川寄会長）
→会報にアンケート用紙を同封しFAXまたはメールでの回答を依頼する予定である。（宮部理事）

12. その他

- (1) 第28回全国中途失聴者・難聴者福祉大会 in 平和の都ひろしまの開催にあたり後援名義使用の依頼があった。後援名義使用を許可した。（川寄会長）
【資料12-1.1、2】
- (2) 令和6年度老人保健健康増進等事業「難聴高齢者の早期発見・早期対応等に向けた手引きの活用に関する調査研究事業」に係る検討委員会委員の推薦依頼があった。麻生理事を推薦したことの報告があった。（川寄会長）【資料12-2.1、2】
- (3) 各ブロックからの議題がある場合には委員会関係の議題とは別に取り扱うとの報告があった。（藤岡副会長）

協議事項

1. 理事会日程について（川寄会長）

- (1) 令和6・7年度第22回報告会議を令和7年5月13日に変更する。
- (2) 令和6・7年度第12回理事会を令和8年4月19日に変更する。

2. C会員異動およびD会員入会について（松岡理事）

- (1) C会員の異動について
 - ・毎月末の日耳鼻からの通知による日耳鼻退会者に対し、臨床耳鼻科医会に在籍継続の希望の有無を所属地方医会へ事務局から問い合わせる。

- ・臨床耳鼻科医会に在籍継続希望の場合はC会員への異動を理事会にて審議し承認をもってC会員への異動とする。

(2) D会員の入会届について

- ・新しく作成したD会員入会届の地方医会記載欄にある推薦理由を理事会にて検討し、理事会の承認をもって入会とする。
- ・所属地方部会とあるが所属医会の間違いではないか？（玉木理事）
→所属地方部会を所属医会に訂正した。（松岡理事）
- ・C会員異動およびD会員入会届に関し、地方医会への説明が必要と考える。（川寄会長）
→庶務委員会で説明文書を作成し、会長名で地方医会へ通知する。（松岡理事）

3. 相談役およびアドバイザーに関する内規案について（松岡理事）

- ・相談役およびアドバイザーに関する内規案につき協議した。
- ・旅費および日当については役員および委員と同等とする。
- ・司法書士に内容を確認し、問題が無ければ今回の理事会で承認を得たとして、令和6年9月1日施行とする。
- ・理事には日当が支給されているが、相談役とアドバイザーの日当は支給されるのか？（吉村理事）
→相談役は理事と同額、アドバイザーは委員と同額の日当が支給されるので明記する。（松岡理事）

4. 会報第5巻第1号の掲載内容（案）、広告募集関係書類など（宮部理事）

(1) 巻頭言：会長 川寄良明、写真（カラー）

(2) 一般社団法人日本臨床耳鼻咽喉科医会について

①沿革・概要

②令和6・7年度役員名簿、写真（カラー）

③新任役員就任の挨拶、写真（カラー）、新任副会長・新任理事・新任監事

④令和6・7年度委員会構成、図（カラー）

⑤代議員名簿（令和5・6年度）

(3) 特集：第5回日本臨床耳鼻咽喉科医会セッション、写真・図（カラー）

①セッション1

「AC ジャパンの難聴啓発キャンペーン開始後の対応」

和佐野 浩一郎 先生（東海大学耳鼻咽喉科准教授）

②セッション2

「親族継承か第三者継承か閉院か、考えておきたい医院の出口戦略」

矢野 弘樹 氏（日本経営ウィル税理士法人主席研究員）

③日本臨床耳鼻咽喉科医会セッション聴講記

（日本臨床耳鼻咽喉科医会 川島佳代子 副会長）

(4) 「成人の軽度中等度難聴者への補聴器購入費用助成に関して」（仮題）

（福祉医療成人老年委員会担当 大滝 一 理事）

(5) 「軽度嚙下障害患者配布用パンフレットならびに嚙下障害診療マニュアルの使用状況アンケート調査結果」（仮題）（学術委員会・地域医療委員会）

- (6) 「聴こえ 8030 キャンペーン」(案)
- (7) 勤務医のページ
- (8) 新任医会長紹介：就任挨拶、顔写真(モノクロ)
 - ・都道府県医会 医会長一覧(2024. 4. 1-2025. 3. 31)
- (9) 各地の医会情報誌都道府県医会会報の目次
 - ・事務局に寄贈された会報、号数・発汗年月日・主な目次等(令和6年1月~12月)
- (10) 委員会だより(会員に周知すべき活動報告等があれば掲載)
- (11) 代議委員会議事録、写真(モノクロ)
- (12) 理事会議事録摘録
- (13) 行事摘録一覧
- (14) 今後の行事予定
- (15) 臨床耳鼻科医会よりの情報提供の記録
- (16) 情報BOX
- (17) 定款・入会規程・入会金および会費規程・代議員選挙規程・役員選挙規程
- (18) 編集後記

広告募集関係書類など

- ・物価高騰が著しいが制作諸費用約300万円/回は前年と比較してどの程度増額しているか？(吉村理事)
 - 今回の試算は昨年分である。発行部数も再度検討し業者に確認して第4回理事会で報告する。(宮部理事)
- ・令和6年10月から郵便料金の値上げが行われる。その影響についても考慮して頂きたい。(野上副会長)
- ・紙等の原材料費の値上げ、郵便代の大幅値上げ、働き方改革に伴う民間宅配業者の配達遅延問題等を予算・スケジュール作成時に考慮する必要がある。(藤岡副会長)
- ・物価高騰を考慮して広告料金を値上げする必要はないか？(吉村理事)
 - 昨年までも広告掲載を取りやめる企業もあり、各業者も協賛に厳しい状態なので現時点で広告料金を値上げすることは難しい。(宮部理事)

5. 勤務医委員会主催 Web 講演会の YouTube 配信について(永田理事)

- (1) 勤務医会員の興味ありそうなテーマについて講演会の開催を検討していた。
- (2) 「医師の働き方改革、今後の勤務医のライフプランの立て方」について興味ある話しをして頂けそうな先生がいたので、web 講演会の開催を委員会で検討した。
- (3) YouTube の動画配信は費用が安く長期にわたり視聴され、視聴回数をカウント出来る等の利点があったので、YouTube による動画配信の詳細を検討することとなった。
- (4) 次回理事会で費用などにつき具体的な資料を提出し継続審議となった。
 - ・YouTube での動画配信は臨床耳鼻科医会として開設をするのか？(川寄会長)
 - 臨床耳鼻科医会で YouTube アカウントを取得しチャンネル開設したいと考えている。講師謝礼については一般的な相場について業者に問い合わせ、次回理事会で報告する。(永田理事)
 - ・YouTube での動画配信の対象視聴者はどう考えているか？(藤岡副会長)

→YouTube の視聴範囲を会員限定にするか一般公開にするかは講師の意向も確認する。
多くの視聴者に視聴して貰いたいので出来れば一般公開にしたいと考えている。
(永田理事)

6. 日本臨床耳鼻咽喉科医会旅費規程の見直し (塩見理事)

- (1) 旅費に関しては、赤字が生じている中部ブロックと近畿ブロックをそれぞれ片道 1,500 円、1,000 円値上げし、ブロック別定額は継続することになった。
 - ・ 交通費について、飛行機代は一定ではなく大きく変動するので実費での支給は煩雑で、ブロック別の定額が良いと思う。現在の規程が実勢価格を下回っている地域はその金額を見直すのが良いと考える。(野上副会長)
- (2) 宿泊費は、各地での宿泊費高騰を受け、甲地方、乙地方の別をなくして全国一律とし、会長・理事・監事・委員長、事務局長は 19,100 円、委員は 16,500 円、上記以外は 14,800 円とすることになった。
 - ・ 宿泊費が高騰しているため、値上げが必要と考える。(川寄会長)
 - ・ 宿泊費については川寄会長の提案に賛成する。(野上副会長)
- (3) 日当は、会長・理事・監事・委員長・事務局長・委員はすべて一律 3,000 円、上記以外は 2,600 円とすることになった。
また、これら本規程は令和 6 年 9 月 1 日から施行する。
 - ・ 「日当」は「報酬」にせず、そのままの扱いで良いと思う。(野上副会長)
 - ・ 所得税(源泉徴収)の対象となる名目や金額は避け、会費値上げ直後でもあり暫定的な見直しに留めてはどうか。(藤岡副会長)

7. 久光製薬からアレサガテープに関する要望書提出について(川寄会長)

- (1) 久光製薬からアレサガテープが将来にわたり採算性改善の見込みがなく、生産継続が困難となるので厚労省へ「不採算再算定摘要願」を提出し交渉の予定であるため、臨床耳鼻科医会からも継続供給の要望書を提出して欲しい旨の依頼があった。
 - ・ 日耳鼻と共同で要望書を提出したいと考えている。(川寄会長)

→異議なくアレサガテープの継続供給について要望書を提出することになった。

その他

- (1) 臨床耳鼻科医会年会費のクレジットカード払いについて (川寄会長)
この案件につきメールでよいのでご意見を頂きたい。

今後の日程

医会報告会議	9/18 (水)、10/16 (水)	20:00～、Zoom
全国医会長会議	11/12 (火)	20:00～、Zoom
第 38 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会	11/30 (土)～12/1 (日)	
国立京都国際会館		
医会セッション	12/1 (日)	国立京都国際会館
第 1 会場 (メインホール)		

(1) AC ジャパンの難聴啓発キャンペーン開始後の対応

【領域講習】 (9:35～10:35)

講師：和佐野 浩一郎（東海大学准教授）

(2)親族継承か第三者継承か閉院か、考えておきたい医院の出口戦略

【共通講習：医療経済】 (10:50～11:50)

講師：矢野 弘樹（日本経営ウィル税理士法人・主席研究員）

医会報告会議

12/4（水） 20：00～、Zoom

第4回医会理事会

12/15(木) 13:00～16:00 医会会議室

以上で、議事をすべて終了し、令和6・7年度第3回理事会が閉会となった。

以上の決議を明確にするため、本議事録を作成し、出席した代表理事及び監事が次に記名押印する。

令和6年9月1日

一般社団法人日本臨床耳鼻咽喉科医会

代表理事 川 寄 良 明 (法人実印)

監 事 浅 井 英 世 (印)

監 事 高 原 哲 夫 (印)

(法人実印)

(印)

(印)